

災害

農業を続けるための

災害に備える基礎知識と対策

近年、頻繁に発生する災害は、特に農業に携わる方に深刻な影響をもたらします。過去の「経験」だけには頼れない、防災の知識についてお伝えします。

豪雨災害は低地、河川の流域傾斜地で被害が甚大化

2018年西日本豪雨では関西から九州にかけて広範囲に豪雨被害が発生しました。中でも広島や岡山、愛媛に大きな人的被害が集中しました。この3県には周辺の山脈、河川、低地、傾斜地など、豪雨被害の発生する条件がそろっていました。まずは自宅、農地などの普段の生活圏に、さまざまな災害発生の可能性があることを知る必要があります。自治体のハザードマップを入手し、確認しておくことは必須。まずは避難経路を必ず確認しておきましょう。特に生活圏が河川の流域、過去に洪水被害に遭ったことのある地域では、災害発生の可能性が高いと考え、指定の避難場所や高台など、安全な場所に避難する経路を事前に決めておく必要があります。テレビ、ラジオ、インターネット、スマートフォンからの情報はもちろん、防災無線、広報車からの情報などに留意し、避難が無駄になっても構わない、という気持ちで早期早めの避難行動を取るようにしましょう。

台風・低気圧の巨大化で発生する強風被害

2018年に上陸した複数の台風により、被害を受けた農家の方々は大変な数に上りましたが、近年、台風の進路も2018年の12号台風のように迷走し、従来では考えられない東から西へ抜けるコースをたどることもあり得ます。これまで台風が上陸しないとされていた東北・北海道にも近年、複数の台風が上陸するようになり、過去の常識や経験値にとらわれるのは大変危険です。

ただし近年の気象情報は、格段にその精度、確度を上げています。少なくとも台風の暴風圏内に入る半日前にはその動向や進行するコースが確認できます。暴風圏が迫る前日には準備を終え、半日前には頑丈な建物の中に避難すること、自分自身の被害を免れることは可能です。毎年、台風の通過時に田畑の様子が気になって屋外に出て、被害に遭ってしまう方が絶えませんが、全ては命があつてのことです。ピーク時に確認に行くことは絶対に避けましょう。



写真上:2015年9月
東北豪雨・鬼怒川氾濫(写真撮影:和田隆昌)



写真下:2018年7月
西日本豪雨・岡山県真備町(写真撮影:和田隆昌)

